

あいさつ 理事長



公益財団法人岩手県体育協会
理事長 平藤 淳

今年の第75回国民体育大会もスケート、アイスホッケー、スキーマの3冬季競技会が終わりました。冬季競技会終了時点の男女総合(天皇杯)得点では昨年を上回っていますし、8位以内の入賞も3つの優勝を含む23種目にのびりました。選手・指導者の努力はもちろん、応援してくださった皆さまのご支援により、「鹿児島国体東北1位」の目標に向けた良いスタートをきることができました。感謝申し上げます。

さて、昨年のラグビーワールドカップ、今年のオリンピック・パラリンピック、来年のワールドマスターズゲームズと、ビッグイベントが3年間続く「スポーツゴールデンイヤーズ」の中間の年を迎えました。県出身のオリンピック出場内定選手もあり、昨年以上にワクワクとした1年を過ごすことができそうです。

ご存じのとおり、この3つの国際イベントは、共通して「レガシー」を継承するという目標も持っています。4年前に岩手県で開催した国民体育大会・全国障害者スポーツ大会でも同様でした。そして、ラグビーワールドカップやいわて国体・いわて大会のレガシーは確実に継承されています。オリンピック・パラリンピックでも、ホストタウンやキャンプ地、聖火リレー・フェスティバルの活動などを通じて、必ずや、レガシーは生み出されるでしょう。

スポーツがもたらす力に期待しています。

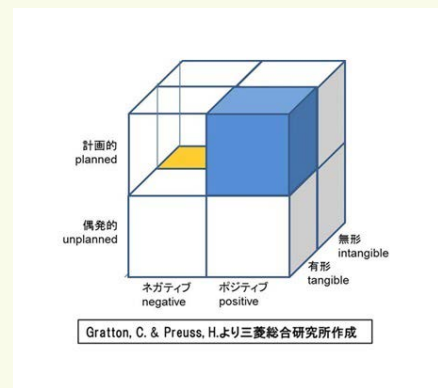
しかし、一方で、レガシーという言葉が表しているものはいったいなんだろう、あの人が言うレガシーと私が考えるレガシーは同じものなのだろうかという

疑問も、最近、持つようになってきました。県内では、カタチのある「レガシー」は、ラグビーワールドカップの会場だった釜石鶴住居復興スタジアムぐらいしか思い浮かばず「レガシーはコレ!」と指をさすことができにくいのです。

調べてみると「レガシーキューブ」という概念があることがわかりました。レガシーを3つの軸でみて、

- ①結果：ポジティブかネガティブか
- ②発生：計画的か偶発的か
- ③形態：有形か無形か

サイコロを4つ並べて2段重ねにするイメージの8分野に分けて考えるものです。



なるほど「レガシー」がこのように分けられるとすると、人それぞれに捉えるレガシーが異なっているのは当然だとも思えます。でも、私たちは、形のあるなしに関わらずポジティブな結果をもたらすレガシーを、再びつくりださなければなりません。

そういうオリンピック・パラリンピックイヤーにしてゆきたいものです。